

新ケミカル商事

得意分野好調、環境関連にも注力

新ケミカル商事は新日鉄を母体として成長した化学品商社で、化学品・炭素材・肥料・樹脂・建材の5つを柱に事業を展開している。このうち化学品は去年の原油下落から持ち直し、コークス・炭素材販売等の炭素材も好調。肥料では製鉄の副産物の硫安のほかアルカリ性土壌改良剤のような独自分野でも強みを発揮している。樹脂も好調で建材は東京都の離島での事業などニッチ領域も開拓している。

コロナ禍で商談は制約されるものの海外事業に今のところ大きな支障は出ていない。展開先では安定した実績を築

いている中国に加え、台湾を次の戦略ターゲットに捉え力を入れていく。

環境事業にも注力し、廃溶剤や廃プラリサイクルに加えパイナップルかすを飼料化したパインパルプ事業にも参画。現在約25%の環境関連売り上げの40%拡大を目標に、油嶋武晴社長は「大手や専門化学品商社とは違う環境関連で差別化を図る」と方針を語る。将来に向けては新中期ビジョンで「儲かる力」「耐える力」「アピールする力」の3つを目指している。